卒業おめでとう　送る言葉

自分の足で「前へ」

一組担任　髙田 幸生 先生

私は二年生からこの学年にお世話になり、君達を間近で見てきました。君達は体も心も立派に成長し、これから社会で大きく羽ばたいてくれると確信しています。

さて、最近の国内経済は輸出増加や好調な企業収益、東京オリンピック需要の後押しもあり、緩やかな回復基調が継続しています。しかしこの好景気が長く続くはずもなく、激動する時代にあってこそ、限られた資源の有効活用と環境保全ということを視野に入れた「ものづくり」が必要になってきます。こうした中、君達は世の中の動きを敏感にキャッチし、将来を先見し、きちんとした未来像を持った上で的確にかつ迅速に行動することが要求されます。本当の意味で社会に役立つ人・精神的にタフな人になってもらいたいと思っています。

君達の今後の人生、いろいろな難局に直面することでしょう。そんな時こそしっかりと考えぬき、判断し、自分の足で大地を踏みしめ、一歩一歩前へ歩いてほしいのです。現状維持は後退と同じ、「前へ」。

今後の活躍を祈っています。

最後のメッセージ

二組担任　角田 貴志 先生

卒業生の皆さん卒業おめでとうございます。このメッセージを読んでいる君たちはどんな表情で、どんな感情で読んでいますか?八幡工業で過ごした3年間は君たちにとってどんな日々でしたか?先生は、3年2組の担任として、学年の生徒指導として、そして体育の先生として、君たちに厳しく指導をしたり、学校生活の事で細かなことを言ってきました。

もしかしたら、学校生活が嫌になったり、心が傷ついた人もいたかも知れません。しかし、今日君たちは卒業しました。これは、君たちの努力の結果です、3年間で培った力です。これを自信に変えてほしいと思います。そして、その努力の日々を支えてくれたのは、友達や先生や、何よりも家族の人のおかげだという事を、改めて感謝する気持ちを忘れないでほしいと思います。最後に、「今日の日がゴールであり、新しいスタートです!」

正直社会は、厳しいです。社会には、色々な理不尽があり、困難な課題が波のように押し寄せてきます。

しかし、君たちが一生懸命に進んでいけば解決できると思います。そして必ず君たちを信じて助けてくれる人がいます。先生もその一人です。

さぁ大きく胸を張って、新しいスタートをきってください。

洋々たる人生に、幸多かれ

学年主任　梅本 泰弘 先生

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。人生の節目となるこの門出に、心よりお祝いを申し上げます。

さて、私ごとではございますが、年齢はとうに50を過ぎ、頭は白く眼はかすみ、耳が遠くなり足は重く・・・いわゆる老化現象が顕著となってまいりました。若いころに難なくできたはずのパフォーマンスが徐々にできなくなるむなしい現実を感じはじめています。このような私にとって、卒業する君たちの『若さ』はまさに、まぶしく輝く宝です。この三年間、君たちは心身ともに逞しく成長されました。専門的な知識はもちろんのこと、身に付けられた基礎的なスキルはこれからの就労先における活躍の足掛かりとなることでしょう。これからさらに成長し成熟されていく皆さんに、自身の夢を託し、これからの日本の未来をゆだねたいと思います。

昨年の12月13日、厚生労働省より、2015年の都道府県別の平均寿命が発表されました。それによれば、男性では前回の調査で首位だった長野県を抜き去り、81.78歳の滋賀県が初の日本一に躍り出ました。これからの洋々たる人生に幸多きことをお祈りしております。

卒業おめでとう

三組担任　神戸 道典 先生

皆さんが誕生した年、私は高校を卒業しました。ついこの前のように思い出されますが、この間に成長し学び、一人の大人として社会に出ていく姿を見ていると、特にこの三年間というのはかけがえのないものだなと感じます。

私は教師になって初めての担任としてこの大切な時間を共有させてもらいました。個性豊かな40人、思い通りいかないこともありましたが、時には元気をもらい私も成長させてもらいました。皆さんに出会い、このクラスを担任することができて本当に良かったと思います。

そして気付けば卒業の日です。ここまでこれたのは周囲のサポートがあってこそだと思います。しかし今後は自分の行動に責任を持たなくてはなりません。身だしなみや言葉づかい、提出物など細かく注意されることはなくなりますが、これは全て自分で管理しなくてはいけないことを意味します。自己管理は社会での信用につながることを忘れないでください。

また皆さんの成長ぶりを見られることを楽しみにしています。

八幡工業三年生

四組担任　川﨑 剛 先生

卒業生の皆さん、おめでとうございます。

三年前、みなさんが入学した春に私も八幡工業高校に異動をしてきました。初めての八工走、体育祭、文化祭と八幡工業での勝手が分からず、みなさん以上に戸惑っていたのが懐かしいです。いろいろな思い出がありますが、私の三年間はあっという間でした。

八幡工業高校の企業からの評価は非常に高いです。企業訪問をさせて頂いた時の企業さんからのお話や、頂く求人の数も驚くものがあります。これらは、八幡工業生や卒業生が築いてきた信頼です。八幡工業高校生は誇りと自信をもって行動をしてほしいと思っています。卒業生の皆さん、これから八幡工業高校生ではなくなりますが、これからはずっと「八幡工業高校卒業生」となります。これからも、八幡工業高校はみなさんの一部です。

八幡工業高校の誇りと自信をもって、これからも活躍をしてほしいと思います。

卒業していく君たちへ

六組担任　浅居 英雄 先生

ご卒業おめでとうございます。君たちと初めて会ってからもう卒業を迎えることになりましたね。

この三年間、部活や友達とのこと、進路等で悩んだり一緒に考えたりしながら、毎日少しずつ成長したと思います。

僕は皆と一緒に「環境」について学んできました。「環境」を考えることは、自分を見直し、考えて行動する力にも繋がると僕は考えています。この三年間の高校生活でみんなが考えたことは、「八幡工業高校という高校での環境」のことだと思います。

例えば、体育祭の中身をどうしていくか?といったことや、相手との距離や言い方で上手くいかなかった時どうするかといったこと・・・。そこで考えたことは、「目に見えない力」となって自分の内面に持つことになっていったと思います。それ以外にも、相手を認めることや、面倒だけど人のためになることを行動したり、考えるだけでも良いと思います。これも「目に見えない力」だと思います。

これから先の永い人生で、職場や家庭で新しい「環境」に入っても、高校時代に経験した、この「目に見えない力」を、今後の「自分づくり」に活かしていけるよう心から願っています。

本当に有り難う。そしてさようなら・・・。

自分の枠を超える冒険のサイン

五組担任　家髙 優 先生

ご卒業おめでとうございます。高校生活も終わり、それぞれの新しい道に旅立つときがきました。希望と不安がいっぱいの事と思います。新しいことをする前のブルーな感情というのは本当に気持ちが後ろ向きになります。「もう、やめとこかな」というようなことばかり考えてしまします。しかし、このような不安の事を、ある旅行記で「いままでの自分の枠を超える冒険のサイン」と書いてありました。毎日、大きな冒険はできませんが、人生の中でこのサインをたくさん経験することで、深く味のある人になれると思います。

様々な偶然で自分にめぐってきた物事も引き受ける。流され、経験していくうちに、自分のこれまでの枠を超えた、良い思い出ができるのではと思います。様々な物事を受け入れ、前向きな気持ちを持ち続けてください。

貴重な時間をスマホで浪費することはやめて、自分らしい力を発揮し、広い世界を楽しんでください。

卒業によせて

七組担任　錦織 惠律子 先生

今になって初めて会ったころを思い返してみると、私以上に君たちの方がどう接していいのか戸惑っていたのだろうと、思い当たることがあります。体育館前の渡り廊下で足を取られて、大縄跳びの練習をしている君たちの前で見事に私が転んだ時も、学年通信に私の高校時代の写真が掲載された時も、どう反応していいのかわからなかったのか、静まり返っていましたね。

今ではお互いにそのような遠慮もなくなり、それぞれの個性がよく見えるようになりました。みんな一人ひとり、違う人間で、違う人格を持っています。それ自体は当たり前のようだけれど、自分の個性を押しつけず、他を思いやるのは簡単ではありません。

時には自分を抑え、他人の意見を尊重し、理不尽に思えることにも耐えることができてこそ、自分の個性を人にも認めてもらい、活かせるのだと思います。

我儘と自由をはき違えることなく、どうぞ自分の人生を大事に生きてもらいたいと思います。

Best wishes for your future success!